

3. 財務の概要

(1) 決算の概要

① 貸借対照表の状況

【資産の状況】

平成28年度末の資産総額は、2,263億4,000万円で前年度末に比べ67億5,900万円増加しました。固定資産は1,960億5,000万円となり、うち有形固定資産については、大学の白山キャンパスおよび赤羽台キャンパスで新校舎を建設したことや各キャンパスで既存校舎空調機の更新を行ったこと、附属牛久高等学校では創立50周年記念校舎新1号館(北館)を建設したことのほか、教育・研究のための機器備品や図書の購入などの増加により、合計で53億900万円増加し1,488億2,600万円となりました。特定資産は、大学で赤羽台キャンパス再開発として積み上げていた将来計画施設設備引当特定資産を60億円取り崩しましたが、新学部設置準備のための引当特定資産として30億円を、減価償却引当特定資産として20億円を、それぞれ組み入れたことなどにより、合計で8億7,500万円減少し466億500万円となりました。その他の固定資産は、赤羽台キャンパスの教育システム開発や事務処理支援システム用ソフトウェアの追加開発などに伴い、1億4,200万円増加し6億1,900万円となりました。流動資産は現金預金が28億4,800万円減少しましたが、金銭信託が50億円増加したことなどにより21億8,300万円増加し302億8,900万円となりました。

【負債の状況】

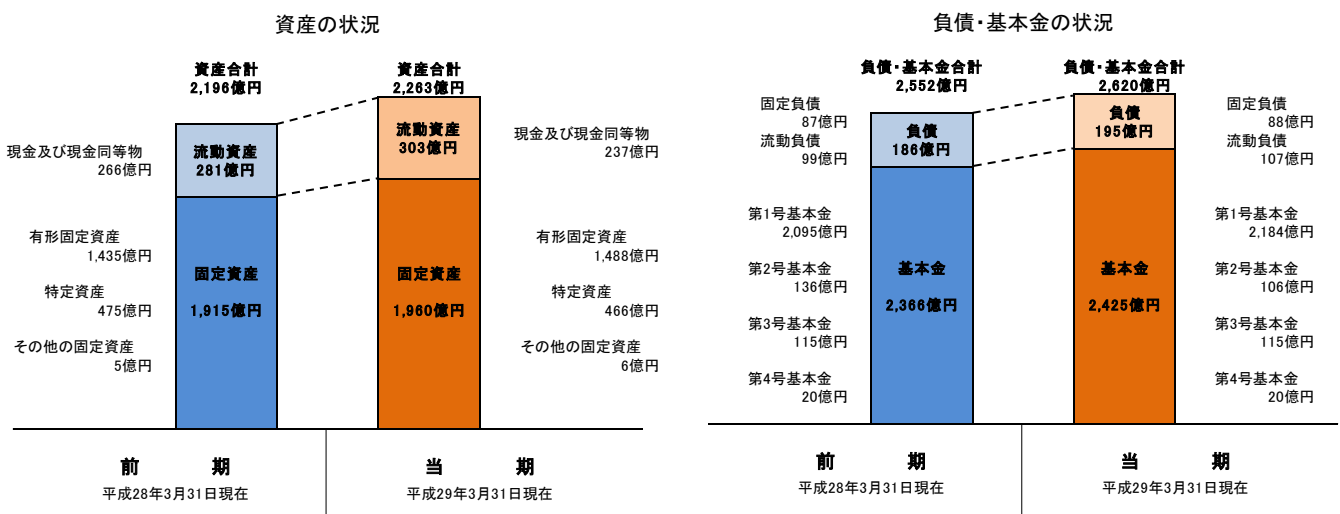
負債総額は195億2,100万円で前年度末に比べ9億1,900万円増加しました。固定負債は退職給与引当金が6,700万円増加したことにより、87億8,300万円となりました。一方、流動負債は未払金が1億2,000万円増加したことにより10億500万円に、前受金が6億2,100万円増加したことにより88億6,400万円になったことなどにより、8億5,200万円増加し107億3,900万円となりました。

【基本金の状況】

基本金は59億2,400万円増加して2,424億8,100万円となりました。このうち、第1号基本金は白山キャンパスおよび赤羽台キャンパスの新校舎建設工事、附属牛久高等学校の新校舎建設工事に係る組み入れや、施設の改修、機器備品など施設設備充実による取得や除却、また大学において2号基本金から60億円を振り替えたことにより、合計で89億2,400万円増加し2,183億8,000万円となりました。第2号基本金は、大学において60億円を第1号基本金に振り替えたこと、新学部設置準備のための引当特定資産として30億円を組み入れたことにより30億円減少し106億円となりました。

【収支差額の状況】

資産総額2,263億4,000万円に対して、負債総額が195億2,100万円になったため、純資産は58億4,100万円増加し2,068億1,800万円となり、基本金が2,424億8,100万円であったため繰越収支差額はマイナス356億6,200万円となりました。なお、今年度末における減価償却累計額の合計は693億2,400万円、基本金の未組入額は2億1,300万円となりました。



3. 財務の概要

(1) 決算の概要

② 収支計算書の状況

【収入の状況】

当年度の事業活動収入の合計は416億2,000万円で、教育活動収支の主な収入項目としては、学生生徒等納付金が前年度より10億3,700万円増加し333億1,100万円に、入学検定料などの手数料が志願者数の増加に伴い前年度より3億2,400万円増加し26億1,000万円に、施設設備以外の特別寄付金や一般寄付金、現物寄付などの寄付金は前年度より3,000万円増加し1億3,200万円に、経常費等の補助金は前年度より1億円減少し36億500万円になりました。教育活動外収支では、受取利息・配当金が前年度より2,400万円減少し3億9,100万円に、特別収支では施設設備に係る寄付金、現物寄付や補助金などのその他の特別収入は1億2,400万円減少し、1億600万円になりました。

【支出の状況】

当年度の事業活動支出の合計は357億7,900万円で、教育活動収支の主な支出項目としては、人件費が専任教職員の採用増加等に伴い前年度より5億9,600万円増加し201億2,000万円に、教育研究経費は前年度より6億4,800万円増加し136億4,100万円に、管理経費は1億1,700万円増加し17億2,200万円となっています。なお、全体のうち46億3,300万円は減価償却によるものです。

【収支差額の状況】

教育活動収支差額に教育活動外収支差額を加えた経常収支差額は、前年度より1億2,900万円増加し60億700万円で、さらに特別収支差額を加えた基本金組入前当年度収支差額(旧帰属収支差額)は、前年度より1億600万円減少し58億4,100万円となりました。基本金組入額を差し引いた当年度収支差額はマイナス8,300万円で、翌年度繰越収支差額はマイナス356億6,200万円(支出超過)となりました。

